

委員さん、どうぞよろしくお願ひします。



原口 かおりさん

任期満了に伴う、川瀬教育委員の退任を受け、新たな委員の任命について同意しました。坂祝町のためにご活躍をお願いいたします。

あの人このひと

今回は、新たに教育委員となられました原口 かおりさんに登場していただきました。

「絵本で子育て」 原口 かおり

私は、幼稚園の先生でした。もともと子どもが好きだったため、天職だと思って勤めていました。しかし、子育てのため一時休職をし、その間に母の不動産業を手伝っていました。10数年前に、宅地建物取引士の資格をとり、現在は、ハウスメーカーの不動産部に所属しています。休職してからは、大好きな読み聞かせの時間や、子どもたちとの関わりとかけ離れ寂しく感じていました。

そんな時、小学校での読み聞かせの活動を始めるオレンジママに出会い、読み聞かせの機会を頂き、今なお、続けています。毎回子どもたちの笑顔や反応に癒されています。

参観日などで、気軽に「オレンジママだ！」と声をかけられて、「次は、この本を読んでほしい。」とリクエストしてくれたり、街中でも、「あっ、オレンジママだ」と呼んでくれます。

我が家でも、娘が学校を卒業しても、「私の4年生の時に読んでくれた本を、弟にも、読んであげて」「僕はダジャレの本が好きだから、みんなにも教えて」と頼まれたこともありました。出会ってほしい本もたくさんあります。そんな想いが続く限り、この活動を続けていこうと思っています。

絵本には、スマホやタブレットでは味わえない、ページをめくる楽しさや、絵を見て、想像を膨らませ、自分なりの楽しさを発見することが出来ます。それは、幼い子どもだけでなく、親となり年齢を経ても、その時々で、楽しみ方が変化します。

我が家では、寝るまでの読み聞かせタイムが

唯一のコミュニケーションになっていました。長女は、様々な分野の絵本を片端から読み、長男は、お気に入りの本を何度も読み返すなど、好みもそれぞれでした。私自身も、読み聞かせのほんの5分間が、一日の疲れをリセットしてくれていたように思います。

絵本を通して、子どもは自分で学ぶことが出来る、だから、親は教えるのではなく、読んで聞かせること、同じ時間を共有することが大切です。また、親は子どもの人生において、あくまでも脇役であり、子どもの意思を優先するべきだと思えます。つまりは話を聞く、失敗をしてもそれを責めるのではなく、前を向いて、成功に結び付けることが出来るようにアドバイスすることが、私たちの役目だと思います。私は、子どもは生まれた時から、自分で強く生きようとする力を持っていると信じています。

これからの情報社会の中、愛とか、優しさとか、伝えることの難しいことは、絵本を通して、自然に理解していきます。

そんな絵本と出会う機会が、少しでも増えるよう、様々な活動を通じて、子どもたちの成長と、教育に少しでも携われることが出来る、そんな私の喜びが皆様に伝われば何よりうれしいです。

